

昭和六三年二月二二日

中八七回

草創期の鉄道 あれこれ

―国鉄・私鉄・幻の鉄道―

78歳

小島

誠

(一) 蒸気車時代のあれこれ

日本に於ける鉄道の開通は、横浜  
(桜木町駅)・品川間をもって嚆矢とな  
す。二月後水て新橋(汐止駅)まで延  
長となり、明治天皇の行幸を得て開  
通式を挙行しそのが明治五年九月十一  
日のことである。

明治政府のこの盛儀に關する布達は、  
次のようである。

一、九月九日東京横浜間鉄道開行の趣  
国内ニ御布告、外国諸公使ニモ其  
竹帛ヨリ告達ノ事。

一、本日勅奏任官ト御所ヨリ供奉ニ列ス  
ルノ外、都テ新橋鐵道館ニ出頭ス可  
ク御沙汰ノ事、但シ着服直垂ノ事。

外国諸公使ヲ本日同所ニ招請ノ書翰  
ヲ外務卿ヨリ贈ル事(公使ニ列スル官位ノ  
イアワ)  
外国人居合サバ同様招請ノ事)

一、本日ハ祝日ニシテ右ノ開行ヲ家庶縦觀  
ノ恩許預メ御布告ノ事。

一、横浜在留各國領事ノ望アル者ハ横浜  
鐵道館ニ來リ同所ノ領事ト立列シテ

拜礼ヲ許ス旨東京府知事ヨリ達スル事。  
一、都テ居合ヒ、外国領事以上ノ者ト預メ

或ハ臨時ニ式ニ加ハルヲ願フモノハ領事ノ  
席ニ列クルヲ許ス、尤場所満テ余地ナキ

時ハ之ヲ辞スル事。  
石三ヶ条外務省扱之。

この外  
ハ幸臨鐵道開行ノ式  
略記

○ 鐵道開業ニ付臨御ノ節兵隊祝式

以下略記

○ 海軍ノ式 略記

附録

一 本日出頭ノ判任官ハ袴羽織ノ事

一 途中鐵道技館毎ニ障壁ナキ場所毎ニ

邏卒(巡察)ヲ配リ置ク事。

一 本日朝方ハ字横浜ヨリ列車ヲ出ス。

同所居留ノ公使及ビ登校ノ印票ヲ持ッ

テ新橋ニ来ル者ヲ載ス。

夕五字半 新橋ヨリ列車ヲ出ス。右ノ人々

横浜ニ帰ルヲ送ル。

一 本日右往還列車ノ外平日ノ列車ハ休業

ノ事。

一 本日鐵道館地内ニ柵棚ヲ架シ之ニ登ル

ヲ許ス。印票ヲ鐵道寮ヨリ出シ、内外

ノ紳士豪家及ビ其姑娘ソノコトヲノ来リ見シ事

ヲ望ム者ニシテ、又官省使府御座外国

人各國領事等ニ之ヲ送シ事 但印票

ハ期日ヨリ早ク出ス可シ。

一 本日浜離宮ノ園庭ニ諸人ヲ集メ官

員衆庶ノ歡樂ニ供ス。

一 衆庶ノ縦觀ヲ思許ノ上ハ、鐵道館ノ

地内障壁ナキ所ニ、下等ノ庶民ノ群

衆ヲ許シ又鐵道寮ヨリ出ス右ノ印

票ヲ持来ル紳士豪家及ビ其姑娘等ハ

右ノ柵棚ニ登ルコトヲ許ス。此ノ輩ハ

後々浜離宮ノ園庭ニ入り諸甚其外

ノ縦觀ヲ得、其飢ウエニ是ルヲメ(赤飯

煮菜)ノ折ヲ印票ト引替ルコトヲ得。

一 夜ハ鐵道館浜離宮ニ賀灯ヲ点ズ。

又浜離宮ヲ遠ク離レタル海面ニ烟火

ノ戲ヲ設ク。

一 横浜行幸、間新橋鐵道館構内ニテ

烟火ヲ設ケ輕氣球ヲ懸ス。

一 棧棚賀灯烟火横浜モ同シ。

以上の如き布達を出したるが開通前の数日

天候悪しく二日延期して十一日としたので

ある。この区間の測量開始は明治三

年三月のことである。この間僅か二年半にして

この盛儀を挙行し得るに到りたるは、英人

エドモンド・モレルの昼夜を合ふ心血を

注いだる努力の賜である。そのため持病の

肺炎を悪化させ僅一年有半にして他界

されたのである。当時日本人でこれ等に

協力した武者満歌、松永若正、村上勝

等もその水その技術者として重きをなし

たのである。当時の新聞は、この鐵道に

對する期待を次々如く報じている。

「東京、横浜の往還蒸氣車道も大略

出来上りしが、(中略)されは来る申まうの

三月には、横浜より江戸まで朝の車で隅

田川の花見に行き、午後の車で帰られるであ

らう。と人々の楽しみ待たなり」と(蒸氣

車事始め)ある。

東京横浜間は、人力車を乗継いで半日の

行程を多數の人を一時間もかからずに運

ぶ動力にはまさに驚嘆そのものであつたらう

と思はれる。従つて当日横浜で国旗を掲げ

軒々に日の丸を絵がいた提灯をかかげて祝

息を表すのもむべなるかな。

この日のことをクラークお玉（イタリヤの彫刻家と結婚）は、……汽車を見物に行くには弁当を持参して前夜から場所をとっておかねばならない。陸蒸気は魔法の力で走るのだ、と噂りの噂でございした。私達も前夜から大森へ出かけを予め出入の百姓が取っておいてくれ、場所で見物致しました。向うの方から煙を吐き風を切りながらピュッと汽車が走って来ますと目白押しの見物人が耳をふさぎ目を閉じてはたくと俯伏してしまふものぞございます。そして汽車が通り過ぎてから恐る恐る顔を上げて口々に「あゝ魂消た」と申しました。（自由国民社刊）と

あるのもむべなるかな。

併せて、その時の時刻表は次の如くである。

（桜木町駅前記念塔より）

表金貨及刻時		出車		列道		鉄	
車ノ等級	上等 片道 壹圓五拾銭	午後	午後	八字	八字	午前	午前
		四字	四字	三十五分	三十五分	横濱登車	品川到着
	中等 壹圓	午後	午後	九字	九字	午前	午前
		五字	五字	三十五分	三十五分	品川登車	横濱到着
下等 同	五拾銭						

旅客車上下三等の内乗らむと欲する所の賃金を過金取引なきやうに用意致し  
来るべし

### 鉄道 寮

来る五月七日より、此表示に日々横濱並に品川ステーションより列車出発す。

乗車せむと欲する者は、遅くとも此表示の時刻より十五分前にステーションに乗り手形四員入、其他の手都合を為すべし。但全車並に着車共必ず此表示を違はざるやうには請合がたけ小とも可成遅滞なきよう取行ふべし。

手形検査の節は、手形を出し改めを受け又手形取集めの節は之を渡すべし。

旅客自ら携う小包、胴乱の類は無賃

なれども、若し損失あらば自ら戻らへし。其餘の手廻り荷物は、目方三十斤迄は二十五銭、三十斤以上六十斤迄は五十銭を掛り荷物掛へ引渡請取證書を求め置くとす。尤一人に付目方六十斤迄に限りとす。

手荷物に總て姓名か又は目印を記すべし。旅客中乗車を得ると得ざるは車5

内場所の有無によらるべし。

犬一足に付片道賃銭二十五銭を掛ふ

べし。併し旅客車に載するを許さず、犬

箱は車長の車にて相渡すべし、犬首輪

首綱口綱を備へて相渡すべし。

登車時限を惰らざるため時限の五分前

ステーションの戸を扃すべし

吸煙車の外は煙草を許す。

この表示でわかるように、創設期の社員

は天下御免の態度であつたらしく、これを

想像して、<sup>けしもち</sup>剣持銈太郎氏(昭和ニ七年七

月号の中矢公論)に次の如く記している。

三井為替社員(鉄道員として雇う)

「その方は、どこへ参る」

客「へーえ、川崎でござりまする」

「然らば、一合ニ朱連金なまよう出せ」

客「恐れ入ります」

ところが現代は千円札をポンと出レ

客「どこでもいいから一番安い一枚」

駅員「どこでしようか？」

客「どこでもいいんだ」

銀貨、細かいのござんせんでしようか、一番

安いのは十円ですが」

客「その十円でもいいんだ。オーイ早くしろ、

何してやんだ、愚図タタするな、オー

イたら」

「オーイ」と云つたので大井町の切符を

出す。客は切符を置いて「フリ銭を」

持つて、待たしたタクシーへ一目せん。

亦昭和十年頃私の友人が西国駅の

出札係をしたことがある。海水浴場へ

の割引切符発売期間に、発車間際に

とんどきて、保田迄で大人二枚子供三枚

早く／＼とせかされて、つり銭少いとどを

られ、多いとそのまま行かれて、その損失は

ホーすえ半分も差引の事なことがあつた。

又当時の新聞にあることだが、東京駅

では遠く巨離のものが多いたけに賞与せ  
口の泣寝入りの虫札負もあつたとのこと。

ところで東海道線の全通は、明治二  
十二年で、マッチ箱と稱する小型四輪車  
で編成されており、平均時速も遅いうえ  
に、便所がなくというくらのトラブルがあ  
つたようである。

その一、二を紹介すると  
婦人客は、夜間光のとどかぬ（當時はラン  
プを屋根から出す）ところで、こつそり用  
をたしそらしい。そこにゆくと田方は便利  
でいよいよ我慢出来ぬと窓から発射して  
すますことも出来た。ところが運悪く  
新吉原の荒物商増沢政吉なる者は鉄  
道員に負付かり、鉄道犯罪四罰則によって

罰金十円に処せられ記録があるとのこと。  
こゝを皮肉つた江戸、吾が「汽車の窓か  
ら小便される、こゝで汽車賃二度出しま  
しと。（史窓余話）デランシヤ節にこ  
れと似たりがあるが、この方は変え詩で  
あろう。

こゝしそ小便事件で鉄道院に最も  
衝撃を与えそのは宮内省の高岡が静  
岡停車場で、キッキから放尿中汽車が  
発車したため、線路に落ちて轢死したこ  
とがあつた。これは私の推察では、当時の  
車輛構造からして、車輛間の連結器の  
上ではないかと思う。どこにも搦まらずに  
用を足していたため、レールの間に落ちたの  
ではなからうか。明治三十二年のことである。



それ故東海道線も當時は便所がなかつたことの証明である。

時に名曲鉄道唱歌（東海道線篇）

は、大和田建樹作で六丁六番まである。

作曲は、多梅程（お方のうめわか）

東京音楽学校を卒業し大阪府師範

学校教諭当時のもので將に不朽の名作

である。参考までに二、三を記せば

七番 八幡宮の石段に（鎌倉）

まてろ一本の大鴨脚樹

別当公曉のかくれしと

戸更にあるは此蔭よ

六五番 おもえば夢が時のまに（神戸）

五十三次はしりきりて

神戸のやどに身をたたくも

人に習ふの汽車の思

猶、埼玉県内の鉄道唱歌も明治三十三年

東京高等師範学校教師石原和二郎

による詩の一部を記せば

一、その名も広き武蔵野の

北部と占むるや埼玉や

県下の旅行を試みん

親しき友とうちつれて

四六、越谷大沢粕壁や

下小は町に中學校

岩槻町にまてみおは

郡役所あり城跡あり

五五、さてその地図とくりかえし

思ふは地方の文明に

富を進めて君のそめ

国をつくさん誠心ぞ

南埼玉郡の郡役所のありを祈

(二) 岩槻町の請願

借、城下町としてきき岩槻町は、

明治十七年東北線赤羽—久喜間の中心としての計画に対し沿線住民の各種の理由による反対によりその地位を大宮に奪われ、その後僅か十年にして住民の意識は、すっかり変革、鉄道の重要性を認識、時あたかも、東武鉄道の計画を知り左記の如き請願を出すに到り。

岩槻町の請願(東武鉄道誘致)

東武鉄道線路に岩槻町編入の義行請願

埼玉県南埼玉郡岩槻町外七箇村人民總代

上村政敏等謹之再拜をテ白根逋信大臣

閣下ニ白ス側カニ因ク昨明治廿八年東請

願ニ保ル東武鉄道布設ノ舉モ不日認可

ノ恩命將ニ下ラント政敏等地方殖産工

業ノ發達ニ就テ願ル望ミラ屬シ満足ラ

懐キニ豈ニ圖ラン該線路中獨、岩槻

町ノ遺棄セラレントハ實ニ千載ノ遺憾

ニシテ只管痛歎ノ至リニ耐エサル所ナリ

抑モ地勢ノ不適當ナルカ決シテ然ラス交

通運輸ノ稀少ナルカ是レ亦然ラス何レ

トナレハ本町タル往古日光街道、副道、

ニ當リ土地平坦肥沃ニシテ山河地沼ノ

障礙ナク既數年ノ新道アリテ交通運輸

ノ類級系ナル百貨集散ノ致速ナル到  
他ノ沿線市街ノ企テ及フ所ニ非ラズシテ常  
ニ世間ノ讓歩スル所ナルヲ以テ知ル可キナリ  
然シテ其著シキ一ニハ事實ヲ摘記セハ  
穀物ニ織物ニ繭ニ土物ニ近クハ粕壁ニ  
越々谷ニ遠クハ大喜ニ菖蒲ニ松戸ニ  
幸手ニ栗橋ニ桶川ニ原市ニ上尾ニ鳩ヶ  
谷ニ貳里以上七里以内ノ市街ハ前記物品  
ヲ本町ニ輸出シ其相場ヲ確定シ東京乃至  
常野乃至関西ニ輸出スルヲ恒トシ且ツ百貨  
供給モ亦本町ニ仰クヲ常トセリ是ヲ以  
テ一朝鐵道ノ布設ヲ視ルニ至レハ一層交  
通運輸ノ類級系ヲ果タスト共ニ百貨ノ  
集散亦多繁劇ヲ仰フルハ素ヨリ論テ  
タサル所ニシテ此場合ニ於テハ獨リ本町ノ

繁盛ヲ増進スルノミナラス一面前條列  
記ノ市民ニ利便ヲ與ヘ一面當該會社ノ  
利益モ既定沿線市街ニ超越スルハ敢テ疑  
ハサル所ナリ將又本町ニハ郡役所アリ警察  
署アリ郡治上警察上行政ノ機關ニ至便  
ヲ與フル實ニ鮮少ナラサル可シ其本町ニ  
於ケル物産ノ種類生産高乃百貨輸出  
入高ハ別紙調書ノ如ク其最重ナル物品ノ  
一ニヲ與ケルハ毎市場(連月一六日)ニ  
現出スルモノ米穀壹萬五千俵織物拾萬反  
ノ多キニ達スルハ常ニ他市街ニ冠絶ス一ノ  
例證タリ事情如斯現況ニ御座候間何卒  
微衷御洞察被成下本町ヲシテ沿線市街  
ニ編入相成候様特殊ノ御詮議相仰キ度  
政教等謹シテ此段奉請願候也

埼玉県南埼玉郡岩槻町人民惣代

明治廿九年四月廿九日

上村 政敏

印

齋藤善兵衛

印

富岡 豊吉

印

佐久間 範次郎

印

下村 栄次郎

印

島田 小三郎

印

大河内 五郎兵衛

印

村田 雄之助

印

埼玉県南埼玉郡新和村人民惣代

大塚 新太郎

印

志村 喜藏

印

増岡 善次郎

印

田口 輔之助

印

埼玉県南埼玉郡和土村人民惣代

濱野 雲二

濱野 常吉

益岡 庄次郎

埼玉県南埼玉郡川通村人民惣代

須賀 清一郎

森田 平太郎

小島 平三

埼玉県南埼玉郡慈恩寺村人民惣代

三城 時七郎

中山 雄助

関根 善六

埼玉県南埼玉郡河合村人民惣代

池内 中助

関根 峯三郎

細矢 定六

埼玉縣北足立郡春岡村人民惣代

小川 林藏 ○

小澤 益太郎 ○

小島 三次郎 ○

埼玉縣南埼玉郡柏崎村人民惣代

宇田川 佐野始郎 ○

吉田 俊一郎 ○

岡田 平三郎 ○

逓信大臣 白根專一 殿

二則書之通相違無之候也

明治廿九年四月廿九日

埼玉縣南埼玉郡岩槻町長上村政敏



明治廿八年中 貨物輸入表

埼玉縣武蔵國南埼玉郡岩槻町

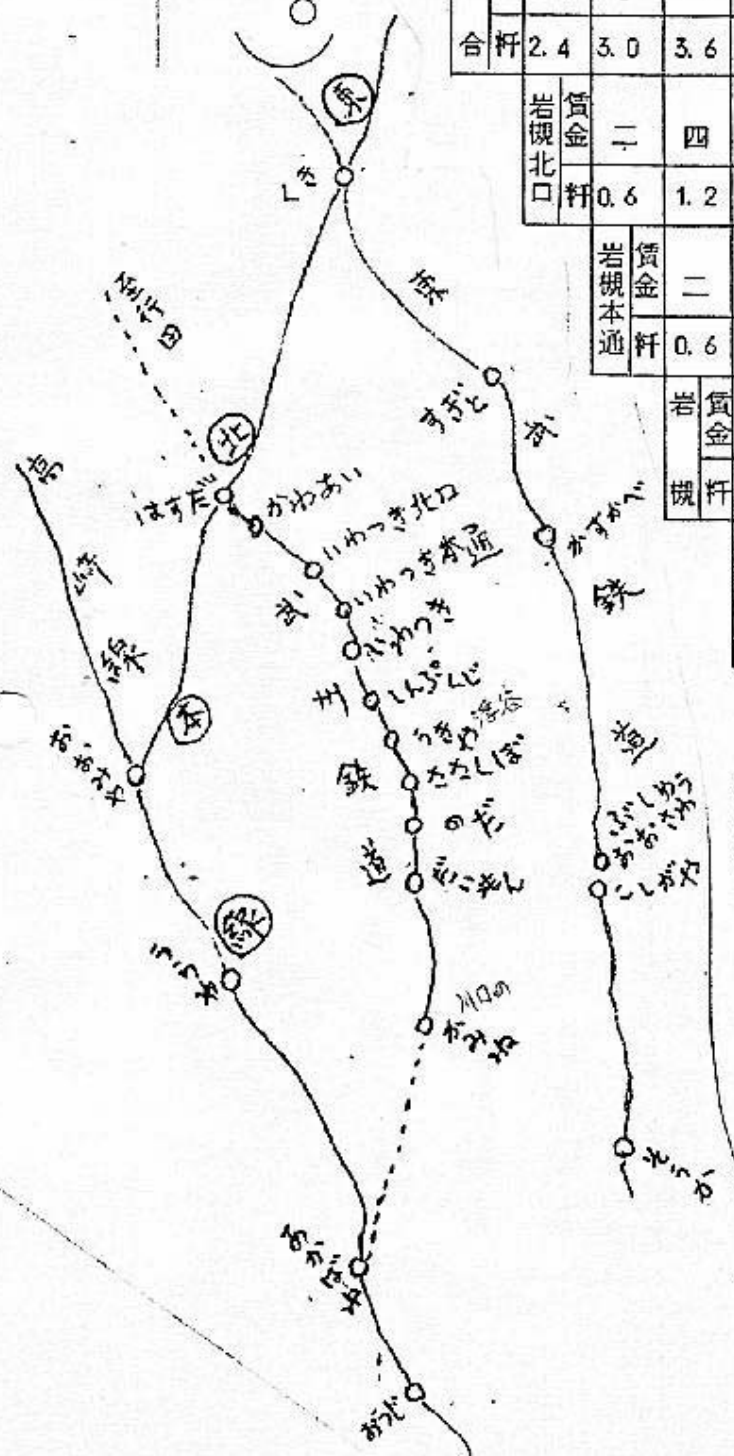
品名	数量	總量	金額	拾貫目 倉庫運賃	總量運賃	運搬方法	摘要
米	二一五、二〇〇 <small>俵</small>	一八四三、一〇〇 <small>貫</small>	四六〇、〇〇〇 <small>円</small>	三、 三、 三、	一一、〇五九 <small>円</small>	荷馬車	東京輸出
大麦	二五、一二〇	三七六、八〇〇	四一、八六六	三	二二六	全	原市輸出
小麦	二三、〇四〇	三六八、六四〇	五九、〇三〇	三	二二三	全	中仙道輸出 大宮
大豆	一、八四〇	三〇、四四〇	五、〇六〇	三、	一九二	荷車	粕壁輸出
小豆	五〇〇	八、三〇〇	一、五〇〇	三、	四五八	荷馬車	東京輸出
雜穀	五〇〇	八、二〇〇	一、五〇〇	三、	四五八	全	全
土物	五〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一、五	一二〇	汽車 荷馬車	古河輸出 前橋
甘藷	四〇、〇〇〇	五六〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	〇、七	七八四	汽車 船積	白河輸出 二本松
生白糸綿	五五〇、〇〇〇 <small>反</small>	七四二、五〇〇	一六五〇、〇〇〇	二、	七、四二五	荷馬車 川松	東京輸出
綿織帳	二〇〇、〇〇〇 <small>反</small>	二八、〇〇〇	六〇、〇〇〇		五六	全	全
カパーゼ	五〇〇、〇〇〇 <small>反</small>	一二、五〇〇	四五、〇〇〇		二五	全	全

武州鉄道籽程・賃金表

蓮田・武州大門間（武州鉄道 三等ノミ）

駅名	河合		岩北	岩本	岩	真福寺	浮谷	笹久保	武野	武大
	賃金	九	一七	一八	二〇	二六	二八	三三	三八	四五
蓮田	籽	2.8	5.2	5.8	6.4	8.1	9.0	10.6	12.0	14.2
河合	賃金	八	一〇	一二	一七	二〇	二五	二九	三六	
	合籽	2.4	3.0	3.6	5.3	6.2	7.8	9.2	11.4	
岩北	賃金	二	四	九	一二	一七	二〇	二七	二八	
	岩北口籽	0.6	1.2	2.9	3.8	5.4	6.8	9.0		
岩本	賃金	二	八	一〇	一五	二〇	二七	二五		
	岩本通籽	0.6	2.3	3.2	4.8	6.2	8.4			
真福寺	賃金	六	八	一三	一八	二五	二九	三六		
	真福寺籽	1.7	2.6	4.2	5.6	7.8				
浮谷	賃金	三	八	一三	一九	二五	三〇	三六		
	浮谷籽	0.9	2.5	3.9	6.1					
笹久保	賃金	五	一〇	一七	二二	二七	三三	三九		
	笹久保籽	1.6	3.0	5.2						
武野	賃金	五	七	一二	一七	二二	二七	三二		
	武野田籽	1.4	2.2							
武大門	賃金	七								
	武大門籽									

浦和、蓮田間十五籽  
賃金 三〇〇  
二等 〇〇  
四八



岩北線は岩北のふたの反灯で（火車）が  
大宮を通った、と推定されていす

(三) 武州鐵道

これについては、岩槻市の飯嶋実氏いひやまの かつむらが幻の武州鐵道トと題して著書が出ている。実によく資料を集めたものである。

これによると当社は明治四十三年設立中央輕便電氣鐵道株式会社と称し翌年中央鐵道株式会社と社名変更。更に大正八年武州鐵道と改称した。大正二年一部工事に着手同年機關車二台到着とある。然し用通は、大正十五年とのことでこの会社が如何に財政困難な情況が推察される。当時当社保有の車輛は左の如し。

機關車 二

客車 三 四輪ニ三等車

合造車ヨウゾウクルマ一人乗一

四輪三等車五人乗二

貨車無蓋 三 四輪六屯車

貨車有蓋 一 四輪七屯車

気動車 三 (昭和三、四年購入)

当社の營業区間、巨萬、貨金等は前頁の如くである。

この鐵道は野田と岩槻北口の間は、御成街道を平行していたが特に浮谷一、岩槻は近く、自転車で友達と一緒に走ったことがあるが、恰好の競走相手であった。この鐵道の痕跡は今殆んどないが、私の知る限りでは野田線で大宮方面に向う時、岩槻駅手前の上り坂とより



最高の部分の下をこの鉄道の通過  
地点であることのみ。

因に当社の営業廃止は昭和十三年との  
こと。

参考図書他

○ 鉄道建設小史

○ 鉄道に生きた人びと

○ 蒸気車事始

○ 鉄道——明治創業回顧談

○ 日本の鉄道100年の話

○ 鉄道80年のあゆみ(1872-1952)

○ 山手線100年

○ 生活文化史

○ 交通博物館見学

○ 世相風俗年表

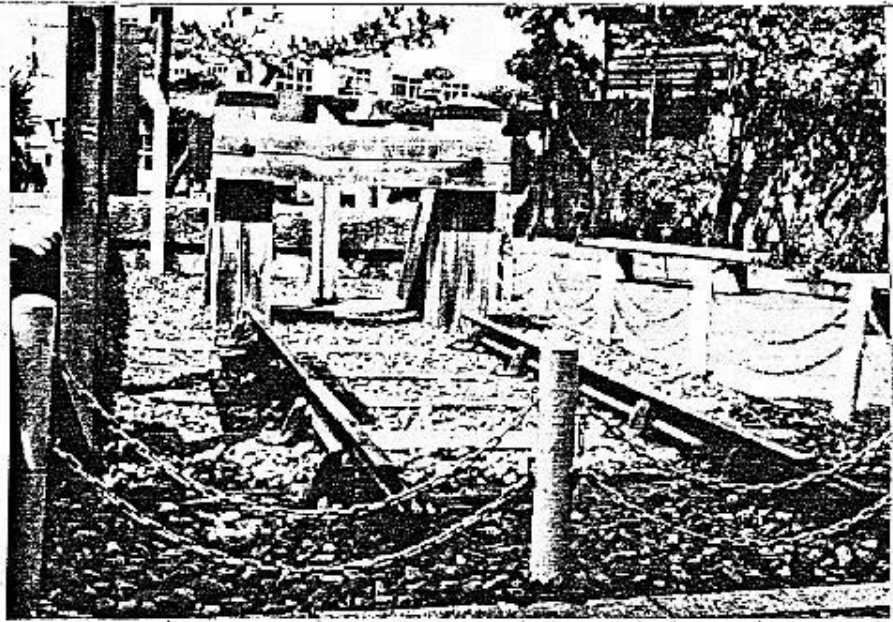
○ 東武鉄道六十五年史

○ 東武鉄道八十年史

○ 幻の武州鉄道

○ 埼玉の鉄道

外



鐵道唱歌の碑

(現新橋駅南口)



↑ 元新橋横濱間鐵道創設  
 起点跡(現汐止<sup>留</sup>貨物駅  
 構内)

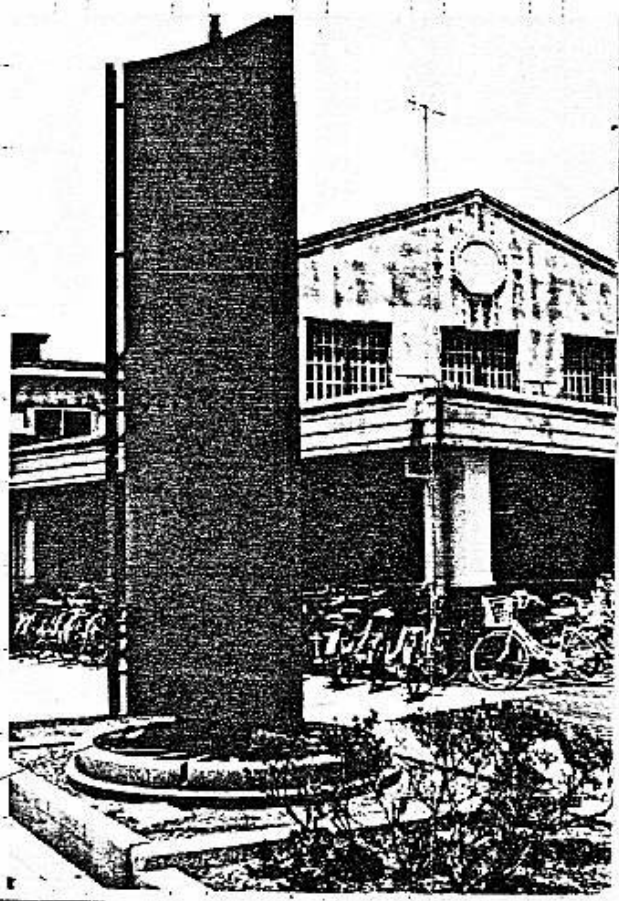


→  
日本の鉄道建設

の父 エドモンド・

モレル(技師長)の胸像  
桜

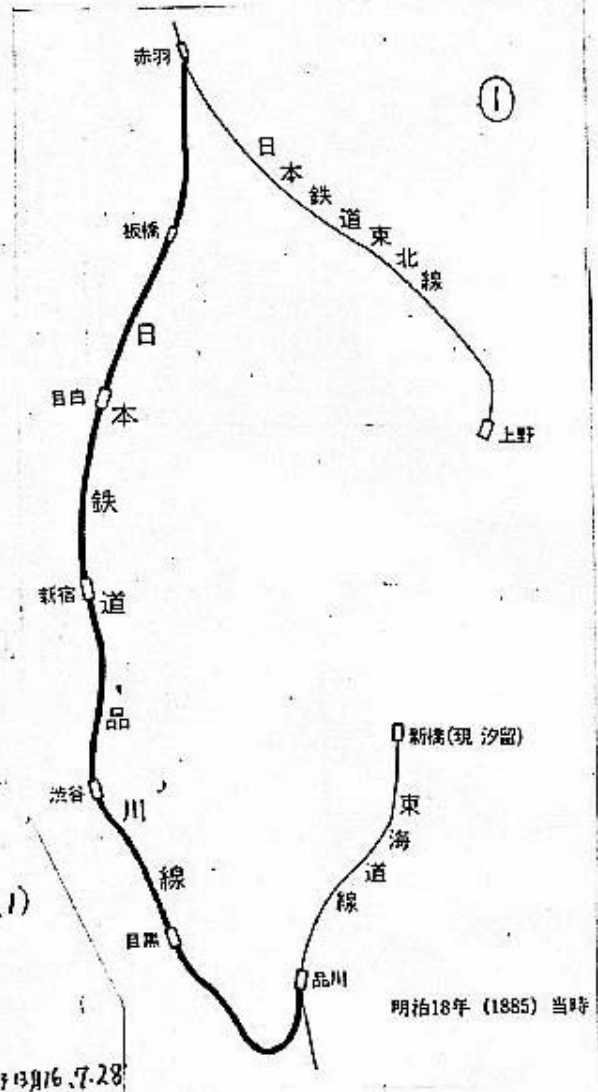
木町駅前



←  
桜木町駅前の鉄塔  
祥地の記念塔

動輪

# 山の手線の 変遷



の汽車時間表による。

後	前	前	前
七五二	一五九	五二二	五二二
三三〇	三〇三	〇五五	〇五五
〇〇〇	〇五五	〇五五	〇五五
八甲上	王政	同松名	古吉
子府助	王政	上本	上本

この左の時刻表並に右下の

時刻表は、大正四年  
二月十二日付「東  
京毎夕新聞」の  
「夕刊」に記載



大正3年(1914)当時



大正14年(1925)当時

前	前	前	前
一〇〇	九九九	八八七	六六六
四〇二	五五三	四一五	五五五
三〇九	一七五	五四五	〇四二
八八	品品	品品	品品
王	田	王	王
子	羽川	川	羽川

後	後	後	後
九八八	七七六	六六五	五五四
三五〇	五四〇	四四二	二二五
五〇〇	七九二	四二五	九七五
八八	品品	品品	品品
王	田	王	田
子	羽川	川	羽川

前	前	前	前
一〇〇	九九九	八八七	六六六
四〇二	五五三	四一五	五五五
三〇九	一七五	五四五	〇四二
八八	品品	品品	品品
王	田	王	王
子	羽川	川	羽川

京

# 東武鉄道

## ■各駅の誕生日

<現駅名>	<旧駅名>	<開業年月日>	<記 事>
【伊勢崎線】			
浅草	浅草雷門	昭6. 5. 25	昭20. 10. 1 浅草と改称
	隅田公園	昭6. 5. 25	昭18. 12. 30営業休止, 昭33. 10. 22廃止認可
業平橋	吾妻橋 - 浅草	明35. 4. 1	明37. 4. 5廃止, 明41. 3. 1 浅草と改め開業
	請地	昭6. 6. 1	昭6. 5. 25業平橋と改称 昭21. 9. 11休止, 昭24. 10. 20廃止
曳舟		明35. 4. 1	
玉ノ井	白 鷺	明35. 4. 1	明38. 7. 15営業休止, 明41. 4. 4廃止, 大13. 10. 1 玉ノ井開業, 昭20. 3. 10戦災焼失により休止, 昭24. 10. 1復活
鐘ヶ淵		明35. 4. 1	
堀切		明35. 4. 1	明38. 7. 15営業休止, 明41. 4. 4廃止, 大13. 10. 1 日駅より約500メートル北千住寄りに開業
牛 田		昭7. 9. 1	
	千住・中千住 中千住信号所	大13. 10. 1	昭5. 2. 28中千住と改称, 昭25. 4. 15営業休止, 昭28. 3. 31中千住廃止, 昭28. 4. 1 中千住信号 所設置, 昭37. 3. 23同信号所廃止
北千住		昭32. 8. 27	(国鉄常磐線既設停車場)
小 菅		大13. 10. 1	昭20. 7. 31営業休止, 昭25. 11. 15復活
五反野		大13. 10. 1	
梅 島		大13. 10. 1	
西新井		明32. 8. 27	
竹ノ塚		明33. 3. 21	
谷 塚		大14. 10. 1	
草 加		明32. 8. 27	
草加荷扱所		昭6. 3. 13	
松原団地		昭37. 12. 1	
新 田		明32. 12. 20	明41. 12. 2廃止, 大14. 11. 10再開業
蒲 生		明32. 12. 20	明41. 12. 25旧駅廃止とともに現駅開業
越 谷	越ヶ谷	大9. 4. 17	昭31. 12. 1 越谷と改称
北越谷	越ヶ谷・大沢	明32. 8. 27	大8. 11. 20武州大沢と改称, 昭31. 12. 1 北越谷 と改称
大 袋		大15. 10. 1	

後前 一 二 三 四 五 六 八 〇 〇 〇 〇 〇 〇 加新同同伊 伊 勢 勢 須崎上上崎	前 一 〇 八 六 〇 〇 一 五 〇 〇 五 〇 局 岡 伊 勢 崎	浅草 發	東武線 第一夕刊 時間表 ニヨル	左記は大正4年 2月12日付東 京毎夕新聞 第一夕刊ニヨル
---	--	---------	---------------------------	--

<現 駅名>	<旧駅名>	<開業年月日>	<記 事>
武 里		明32. 12. 20	
一ノ割		大15. 10. 1	
春日部	粕 壁	明32. 8. 27	昭24. 9. 1春日部と改称
姫 宮		昭 2. 9. 1	
杉 戸		明32. 8. 27	
和 戸		明32. 8. 27	
久 喜		明32. 8. 27	東武鉄道最初の開通区間は北千住・久喜間(日本鉄道、後の国鉄東北本線既設停車場)
鷲ノ宮		明35. 9. 6	
花 崎		昭 2. 4. 1	
加 須		明35. 9. 6	
須 影		明36. 9. 13	明41. 8. 15廃止、昭 2. 4. 1再開業
羽 生		明35. 4. 23	
	川 俣	明36. 4. 23	明40. 8. 27利根川架橋工事完成により群馬県側に移転したため廃止
川 俣		明40. 8. 27	
茂林寺前		昭 2. 4. 1	
館 林		明40. 8. 27	
多々良	中 野	明40. 8. 27	昭12. 3. 1多々良と改称
<small>あぐた</small> 県		昭 3. 5. 1	
福 居		明40. 8. 27	
東武和泉		昭10. 9. 20	
足利市	足利町	明40. 8. 27	大13. 8. 25足利市と改称
野州山辺		大14. 7. 20	
	競馬場前	昭 7. 4. 17	臨時開業駅として随時営業、昭14. 1. 31廃止
蕪 川		昭 7. 10. 25	
太 田		明42. 2. 17	
細 谷		昭 2. 10. 1	
大 崎		明43. 3. 27	
世良田		昭 2. 10. 1	
境 町		明43. 3. 27	
剛 志		明43. 3. 27	
新伊勢崎		明43. 3. 27	
伊勢崎		明43. 7. 13	(国鉄両毛線既設停車場)

【千住貨物線】